



発行・京都障害者スポーツ振興会

題字 芝田 徳造

国体から始まった私の人生

京都障害者スポーツ振興会

水泳のつどい担当理事

服部 清輝

40年前、鹿児島国体に出場され、現在も障害者水泳のつどいのボランティアをされている服部清輝さんに話を聞きしました。

1 水泳との出会い

ポリオで左足に障害がありました。高校卒業まで一般校で過ごしました。体育の授業はできる種目は同級生と一緒に、できない種目は見学や点数係など行っていましたが、何か物足りなさを感じていました。しかし水泳は中学・高校(男子シノク口)で有名な埼玉県立川越高校にプールがあったことで、水泳は足の不自由さを感じることがありませんでした。

2 鹿児島国体に出場

高校卒業後は大学受験と家業の材木店を手伝っていましたが、二十歳の時に県の障害者スポーツ大会に出場し

ないかと誘われて初めて参加しました。その年鹿児島国体に埼玉県代表としてソフトボール投げと幅跳びで出場しました。国体出場を契機として、多くの友達ができ、これからの自分の生活を考える契機となりました。

3 京都で生活を始めて

国体出場後、生活も仕事も親と一緒にいいの。親から自立するには、どうすればいいのかを、考えるようになり、一人、京都に引っ越すことにしました。就職した会社に聴覚障害の人がいて、手話教室・手話サークルの活動に取り組み。聴覚障害者いこいの村の建設活動等にも参加しました。また、水泳は自分で行えるスポーツとして、仕事が終わって会社帰りにスイミングに通って泳いでいます。

4 振興会のリーダーとして

手話サークルから紹介され、振興会が向日市で行った巡回スポーツ教室に参加し、翌月から府立体育館のスポーツのつどいに参加しました。水泳を行っていることでスポーツキャンプのリーダーとして参加することになりました。夏のキャンプは暑い3日間でしたが、参加者の笑顔を見ると疲れも吹っ飛び、充実した3日間を経験しました。昭和57年から開催された京都で初めて取り組まれた障害児者水泳教室に準備段階からリーダーとしてかかわりました。多くの仲間と参加者の笑顔に接することができ、年配の女性で初めて水着を着てプールに入る肢体に障害のある人。プールよりも話に夢中になっていた人。25メートル泳ぎきるのに人生をかけて自分奮い立たせていた人。泳げるようになったことが自信となり、他のスポーツや新しい活動に取り組まれた人。障害のある子ども達の発達を思う親の姿等に接することができ、そのことがリーダーを続ける原動力になっていきます。

5 ボランティアとして大切にしていること

水泳教室と水泳のつどいでいつも、「参加者の障害だけを見ないで、ひとりの人としてかかわるよう」と言

続けています。自分の生活を振り返ると、いつも母親を含め家族も友達も、私が障害を意識しないようにかかわってくれていました。障害への配慮は必要ですが、参加者の障害を第一に考えると、人のことが考えられずに、人としてかかわることができにくいように思います。

6 国体に参加してみても

国体に出場してことごとくさんの友達ができ、その中で自分の生活について考える機会となりました。親と同居していれば経済的に何不自由のない生活を続けることができそうですが、自立を考えると自分ひとりで生活することが必要だと考えました。京都で生活を始めてから、手話サークルやスポーツ振興会がかかわったことで多くの仲間にも恵まれました。また、水泳はこれからも一生続けたいと思っています。

インタビューを終えて

9月20日に三十三年間勤務された会社を定年で退職されました。これからは今まで同様ボランティアを続けながら、奥さんの実家の畑で無農薬野菜作りに取り組みたいと熱く話されています。ますますのご活躍を期待しています。

(聞き手 広報部)

行事予定	10月	13(火)	丹波障害者スポーツのつどい	丹波自然運動公園	来月のつどいは 11 / 8 第2日曜日
		18(日)	215回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	
			第32回府民総体交流種目卓球バレー大会	京都市障害者教養文化・体育会館	
		24(土)	車いすハンドボール審判講習会①	京都市障害者スポーツセンター	
		25(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
		31(土)	車いすハンドボール審判講習会②	京都市障害者スポーツセンター	
	11月	6(金)	第14回精神障害者スポーツ大会	京都市体育館	
7(土)		車いすハンドボール審判講習会③	京都市障害者スポーツセンター		
京都障害者スポーツ振興会ホームページ				TEL/FAX075-712-7010	
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/				(2009年9月23日に一部更新)	

スポ振ルネサンス

「心でつなぐ活動を！」

京都障害者スポーツ振興会

副会長 水谷 裕

今月の「つどい」発行日の今日、新潟では「第9回全国障害者スポーツ大会（以下、全スポ）」が開催されています。

今年5月、全スポの京都府・京都市代表として選考され、派遣が確定した選手は、合同練習会が月2回のペースで10月の本番に向けて行われてきました。

この間、今年は少し早まりましたが、暑い中を大会本番での最高のパフォーマンスができるようにと一杯練習を重ねてきました。ガンバツてきた選手に皆さんと共に精一杯の声援を送りたいと思います。

この全スポに関して昨年4月号のスポ振ルネサンスで、私たち京都障害者スポーツ振興会は、直接関わっているコーチとして、「それらガンバツている選手に対して、きちんと応えられているのでしょうか？」ということを書き、苦言を呈しました。

若干の不安が残っていますが、それらのことについては、きつと、改善してくれていることを信じて、

少し置いておいて、7月号のスポ振ルネサンスで書いたように、今年4月6日に「全国障害者スポーツ大会選手選考のあり方についての検討会」が持たれ、結論として、京都における全スポの選手を選ぶにあたっては、スポーツ経験の浅い障害のある人々にも全国大会出場を通して社会参加を促進させることを前提に、個人競技部門において引き続き、初出場の人からの選考を継続することになったこと、また、これを踏まえて6月に「全国障害者スポーツ大会参加者活性化対策プロジェクトチーム」を立ち上げたことは、すでにご存知のことと思います。

このことは、振興会活動の基本で最も大事な、「障害のある人々のスポーツの裾野を拡げ、スポーツを通して次に繋げること」という理念と実践を追求し、あらゆる障害のある人々にスポーツ活動の楽しさなどを、さらに普及・振興して行きたいと考えているものです。

とりわけ、日頃からスポーツ活動から疎遠になりがちな重い障害のある人々の全スポ出場につながるスポーツの支援をす

ることが必要であるので

従来から、重い障害のある人々の参加を口にしながら、いつも、移動や生活介助などがネックとなつて、暗黙のうちに体裁を整える程度の選び方しかできていませんでした。

「スポーツ経験の浅い障害のある人々にも全国大会出場を通して社会参加を促進させる」という方針を掲げた京都障害者スポーツ振興会は、当然ながら、スタッフみんなが同じ意識のもと取り組むべき課題であるということも言うまでもありません。

このことを実現するためには、現在以上に全スポの練習会、本番などの役員・コーチの果たすべき仕事、役割の再認識、再構築が必要であると考えます。

とりわけ、本番での役員・コーチの存在意義や役割は、種目別の指導をし、競技日程を無難にこなすだけが役員・コーチの仕事ではなく、本番までの約半年間積み重ねてきた練習の成果を本番で最高のパフォーマンスと結果を出せるように、コンディションを整える環境をつくること。つまり、大会当日だけでなく、その前後を含め

た派遣日程期間中選手たちに対して、いかに、安心、安全を保障するかにあるのです。本番の現地まで行って細かい技術指導をしても大してプラスにはならず、疲れさせることとなり、返ってマイナスとなるといえません。

本番では限られたサポート体制（人員）で行動しなければなりません。最近のように選手団が分宿しなければならぬ状況では、昔のように十分に手が回らないことは言うまでもありません。かといって、近年のように厳しい財政状況の中では、人的な増強をすることもままならないのが現状で、当然のことながら役員・コーチが、互いに協力しなれば、いろんな面で選手に負担がかかってしまい、だれのためか、何のためか大会が分からなくなります。

どのような状況においても、京都障害者スポーツ振興会は、全国障害者スポーツ大会の選手派遣事業を行う政から委託を受けている団体として、また、京都におけるすべての障害のある人々のスポーツを支援する団体として、前向きに取り組む、役割を果たしていきたいと考えます。

第13回全日本障害者

フライングディスク競技大会

IN TOKYO

8月12日開催

吉田 清

ディスクス 29.32m

1位

アキュラシー(5m)

5投 5位

第25回全京都

車いす駅伝競走大会

9月6日開催

会場 府立丹波自然運動公園

各部門優勝チーム

(地域)

あやべランニングスター

(クラブ・職域)

福知山GMW

(学校・施設)

あしたーる・ほどほどA

ミニ駅伝

(一般)

よさの

(施設・学校)

あじさい園

25回連続出場特別表彰

森田 明典(福知山市)

西川 春雄(宮津市)

小西 彬則(与謝野町)